

## 省エネルギー住宅のトップランナーを選定する表彰制度 『ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2016』において 3ブランドで『優秀賞』と『優秀企業賞』をW受賞

株式会社LIXIL住宅研究所

株式会社LIXIL住宅研究所(本社:東京都江東区/代表取締役社長:今 城幸)では、このたび、一般財団法人日本地域開発センター(主務官庁:国土交通省)が主催する、省エネルギー性の優れた住宅を選定する表彰制度「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2016」において、アイフルホームの『セシボ』、フィアスホームの『arietta(アリエッタ)』、GLホームの『WoodsHill(ウッズヒル)』の3ブランドで優秀賞を受賞しました。

さらに、アイフルホーム・フィアスホームにおいては、5回以上連続しての受賞となるため「特別優秀企業賞」を、GLホームにおいては、3回以上の連続受賞となるため「優秀企業賞」を同時に受賞しました。

「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」は、省エネルギーやCO<sub>2</sub>削減等に貢献する住宅の普及と快適な住まいの実現に貢献することを目的に、建物外皮と設備を一体とした省エネルギー性と、販売実績や設計・施工における標準化といった普及性を評価し、優れた住宅を表彰する制度です。



評価基準は、(1)外皮・設備の省エネルギー性能値、(2)多様な省エネルギー手法の導入、(3)省エネルギー住宅の普及への取り組みの3つで、優秀と認められた住宅が表彰されます。

今回、優秀賞を受賞したアイフルホームの『セシボ』は、高気密・高断熱の建物を基本に、自然エネルギーを上手に利用するとともに節湯・節水機器、LED照明などの高効率省エネ設備の利用、屋根・壁への遮熱対策などを施した建物を提案。これにオリジナルCADによるZEH判定・生涯コストシミュレーションを用いてエコ住宅の提案を積極的に行うことでエネルギー消費を抑えた住まいの普及に努めています。

フィアスホームの『arietta(アリエッタ)』は、高気密・高断熱技術を基本に風や光などの自然エネルギーを活用した少ないエネルギーで暮らすことができる住まいを提案。「レポート」や「性能報告書」で暖冷房効果や建物性能を見える化するなど、消費者に分かりやすい取り組みで省エネルギー住宅の普及に努めています。

GLホームの『WoodsHill(ウッズヒル)』は、断熱性・気密性に優れたツーバイシックス工法に制震システムをあわせた「ハイパーモノコック構法」をベースに、通風・創風などの自然エネルギーの活用、調湿機能のある内壁材の採用により無駄な電気の使用を抑えると共に、住まい手が快適に過ごせる工夫を取り入れた住まいづくりを提案しています。

### ◆受賞内容◆

カンパニー名	アイフルホーム	フィアスホーム	GLホーム
受賞名	優秀賞	優秀賞	優秀賞
商品名	「セシボ」 <受賞対象地域> 1-7 地域※	「arietta(アリエッタ)」 <受賞対象地域> 3-6 地域※	「WoodsHill(ウッズヒル)」 <受賞対象地域> 3-6 地域※
特別表彰	特別優秀企業賞		優秀企業賞

※省エネルギー基準による地域区分

### 【報道関係者のお問合せ先】

(株)LIXIL住宅研究所 広報・宣伝部 担当:千明(チギラ)  
電話:03-5626-8251 メール:kazuhiko.chigira@lixil.com  
LIXIL住宅研究所ホームページ/TOP URL:<http://www.lixil-jk.co.jp/>

本ニュースリリースは、本日、国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会にて、広報発表しています。

## 【参考】アイフルホーム

### 優秀賞「セシボ」(1-7 地域)

『セシボ』は、「こどもにやさしい は みんなにやさしい」をコンセプトにキッズデザインの考え方を取り入れ、「すべての世代にやさしい家づくり」を考えて開発した住宅です。

環境問題、安全性、快適な室内環境、経済性、そして家族の絆と夢など、住宅が解決しなければならない問題を見つめ「家そのもので出来ること」の可能性を“もっと ずっと”追求した住まいです。



#### ●建物外皮・設備機器について

建物外皮性能は、外皮平均熱貫流率( $U_A$ 値)、冷房期の平均日射熱取得率( $\eta A$ 値)とも1-7地域の各基準値をクリアする性能とし、暖冷房、換気設備等の設備機器については高効率機器を採用。太陽光発電システムについては、初期支出なしで導入可能な支援サービス「楽暮らし(らくらし)発電」を展開。一次エネルギーの消費量を抑える性能・機器を活用し、創エネ設備を導入しやすいサービスを提案しています。

#### ●多様な省エネルギー手法の導入について

エネルギーを使わない工夫としてパッシブエネルギーを活用。温度差換気を利用した「創風」、風の通りを考えた「通風」、窓の配置などを工夫して風を取り入れる「採風」などの工夫を採用しています。

建物内に外部の影響を取り入れないため、壁には「遮熱型透湿防水シート」、屋根には「遮熱屋根材」や「オリジナル遮熱工法」を採用し、外気による影響を抑えて暖冷房効率を高めることで快適性とエコ生活を両立します。

その他、キッチン、洗面などの水回りには節湯・節水に配慮した水栓、保温浴槽、節水型便器を採用、照明はLEDとし、また幼児期からの環境意識向上のため、子どもでもスイッチを入切しやすい「高さ1mのスイッチ」などの取り組みにより省エネルギーに配慮しています。



<通風・創風イメージ>

#### ●省エネルギー住宅普及への取り組み

アイフルホームは、ZEHビルダー登録事業者として2020年度までのZEH住宅普及目標を50%以上と掲げ、省エネ住宅の普及に取り組んでいます。さらに、未来へ向けて持続可能な社会を作るための研究開発、オリジナルCADによるZEH判定・生涯シミュレーションの提案など、様々な取り組みで省エネ住宅の普及に取り組んでいます。



(左)アイフルホーム「セシボ」外観

(右)実験住宅「次世代レジリエンスホーム『家+X』外観

ZEH判定レポート

## 【参考】フィアスホーム

### 優秀賞「arietta(アリエッタ)」(3-6 地域)

『arietta(アリエッタ)』は、「そよ風」を意味します。北海道基準をクリアする最高水準の断熱・気密性能をベースに、風や光などの自然エネルギーを活かす工夫を盛り込み、未来へと永く住み継がれる住まいを目指しています。



#### ●建物外皮・設備機器について

樹脂系断熱材と構造用パネルを一体化させたオリジナルの『粘震+eパネル』で建物全体を囲うことで、厳しい北海道基準をクリアする最高水準の断熱性能を実現。さらに、付加断熱により $U_A$ 値 $0.30\text{W}/\text{m}^2\cdot\text{K}$ という欧州の高い基準に並ぶ断熱性能を実現した商品もラインアップしています。また、気密性能の自社基準をC値(隙間相当面積) $1.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下と定め、全棟測定を実施。2016年の実物件の平均値は $0.47\text{cm}^2/\text{m}^2$ で、基準を上回る実績となっています。暖冷房、換気設備等の設備機器は、高効率機器であることはもとより、太陽光発電システムや地中熱を利用したヒートポンプ式エアコンなど再生可能エネルギーを活用する住まいを提案し、一次エネルギー消費量を抑える取り組みを実施しています。

#### ●多様なエネルギー手法の導入について

春や秋には、自然の力を活かし、サッシ・建具・吹き抜けの工夫による自然換気や温度差換気を利用。通風は自立循環型住宅の思想を取り入れ、全居室2面開口や、より大きな通風効果を得られる窓「フル3Dウィンドウ」、袖壁によるウインドキャッチ提案などを採用。また、軒の出を深くすることで夏季には日差しや熱気の進入を抑えるとともに、涼風を室内に上手に引き入れ、冬季は日差しをたくさん取り込む『パッシブ設計』を取り入れています。

#### ●省エネルギー住宅普及への取り組み

フィアスホームは、ZEHビルダー登録事業者として 2020 年度までのZEH住宅普及目標を 50%以上と掲げ、省エネ住宅の普及に取り組んでいます。さらに、省エネ効果については、設計段階での省エネ効果を年間光熱費・一次エネルギー消費量削減率(ZEH適合判定)に置き換えて提案する「eレポート」や、施工した建物の気密・断熱・燃費性能を数字・グラフで見えるようにした「性能報告書」を邸別に用意。性能を見える化してお客様に提案しています。



＜フィアスホーム「arietta(アリエッタ)」外観＞



＜「eレポート(左)」と「性能報告書(右)」＞



＜袖壁によるウインドキャッチ提案＞



## 【参考】GLホーム

### 優秀賞『WoodsHill(ウッズヒル)』(3-6地域)

「WoodsHill(ウッズヒル)」は、「美しく住まい、美しく暮らす家」をコンセプトに木造建築の世界基準であるツーバイフォー工法を日本の気候や風土に合わせて進化させ、さらに北米建築に見られる高いデザイン性、ゆとりを楽しむ暮らし方提案など、GLホームだからこそ実現できる「美しい品質」を備えた住宅です。



#### ●建物外皮・設備機器について

断熱性・気密性に優れた暖冷房効率のよい基本仕様＋制震システムをあわせた「2×6 ハイパーモノコック構法」により、外皮平均熱貫流率は、屋根・壁・床・開口部とも地域の各基準値をクリアする 0.5W/m<sup>2</sup>・K以下を実現。暖冷房設備、換気設備等の設備機器は高効率機器を採用し、一次エネルギーの消費量を抑える取り組みを実施しています。

#### ●多様なエネルギー手法の導入について

春や秋の季節の良い時期には自然の力を活かし、地窓・高窓、袖壁、通風建具、吹き抜けなどの工夫を用いた通風・創風(温度差換気)、採風・採光を行える「パッシブECOデザイン」の設計手法を用いて提案しています。水回りには節電・節水設備の採用により、普通に暮らすことが毎日のエネルギーの無駄を減らすことにつながっています。最新のテクノロジーで無駄をなくした家計にやさしいエコな暮らしを提案しています。

#### ●省エネルギー住宅普及への取り組み

GLホームでは、光熱費・CO<sub>2</sub>排出量シミュレーションなど省エネ住宅に住まうことのメリットをカタログや自社Webサイトなどで公開しています。また、消費者に分かりやすくZEHを紹介するため、オリジナルの「早わかりZEHBook」を制作し、ZEHの普及に努めています。

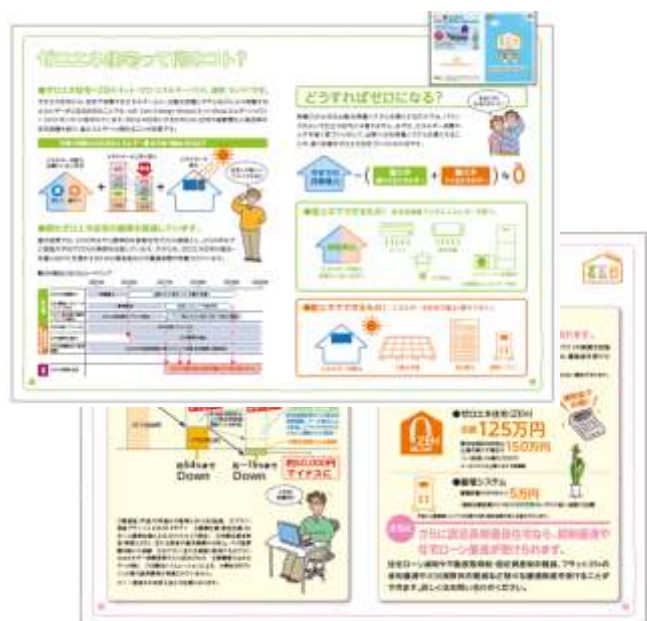
さらに、平時の省エネだけでなく、有事における家族の安全・安心やライフラインの確保の工夫など、万が一有事が発生したとしても、永く住み続けるための住まいの研究や実証実験を実施し、マスコミを通じて一般に公開するなど、様々な取り組みで省エネ住宅の普及に取り組んでいます。



<GLホーム「WoodsHill」外観>



<パッシブECOデザイン>



<早わかりZEH Book>